

第187回森で遊ぶ会・実施報告書 (入笠湿原)

1. 実施日時 令和4年5月30日(月) 11:00 ~ 15:30(現地)
2. 実施場所 入笠湿原(長野県・富士見町)
3. 参加インストラクター会員
担当: 杉山、小久保
アシスト会員: 青野、越智、小嶋、佐野、高橋、矢下
4. 一般会員の参加 合計36名(静岡市・28、藤枝市・5、富士市・2、島田市・1)
5. 募集方法 前回の参加者にチラシを手渡し、森で遊ぶ会・会員へのクチコミ、会員への募集メール
6. 実施状況

新型コロナの感染者数が減ってきたとはいえ、まだまだ収束も見通せない中での実施となった。参加者にはリピータが多いが、毎回皆さん楽しみにしておられる様子で今回も大勢の方にご参加いただいた。幸い好天に恵まれ、また花の名所として知られる入笠山だけあって、皆さんにしっかり楽しんでいただけたようだ。参加者数が多かったため、参加費もその分募集要項の金額より減額した。「浮いた分をお土産に」、とされた方も多かったようだ。

観察は入笠湿原とその周辺を中心にして思っていたが、ゴンドラ山頂駅の近くに作られた山野草公園に数多くの草花があって、予想通りそこでたっぷり時間を使ってしまった。本来は自然のままが見られる湿原の方に重きを置きたかったのだが、山野草には目がない参加者が多いので仕方がない。計画時点では帰路は中腹の沢入登山口まで歩いて下り、その途中で多くの樹木も見てもらおうと思っていた。しかし下見の結果「これはきつと時間的に無理」と考え、帰りもゴンドラで下ることに変更した。事実山野草公園だけでかなりの時間を使ってしまい、帰りは沢入まで歩いて下るなど到底無理な話だった。しかしその分たっぷり花々を楽しんでいただけたので、良しとしよう。

参加者には3つの班に分かれて頂き、それぞれに2~3名のインストラクターがついて山野草公園、次いで入笠湿原へと回った。以下、班ごとにその観察の様子を紹介する。

【第1班】(担当: 青野、小久保、矢下)

女性ばかり11人、ベテランから初参加の方までいる「混成」グループだった。第1班なので先頭を切って山頂駅でゴンドラを下りると、先ず青空を背景に編笠~蓼科方面までズラリと並ぶハケ岳の山々が眼を引いた。絶好の天気と眺め、それに程よい暑さに心地良いそよ風も吹いて、思わず「気持ち、いい～」と叫ぶ声が聞こえてきた。早速あの有名なスズラン畑が目の前に広がる。しかしこの株は皆ドイツスズランで、見栄えはするが自生の日本スズランではない。スズラン畑はほどほどにして、山野草公園の中を巡った。

シロバナエンレイソウ、サクラソウ、ツバメオモトやイカリソウなどの花が咲いていたが、まだ花の咲いていないものはなかなか識別が難しく、説明する方も苦勞する。ヤグルマソウやマルバダケブキ、シモツケソウやホソバトリカブトなど葉に特徴のあるものは分かりやすいのだが... 例えばヤナギランなどは、「ここに沢山あるのはヤナギランです」と話すと、「えっ、これが~?」と怪訝な顔の人もいた。まだ背の低い株からあの立派なヤナギランをイメージするには、やや飛躍があるのだろう。それでも「そう、じゃ今度ヤナギランの季節に来てみたいわね」と言ってくれる人もいて、ありがたい。しかし今回ここで一番皆さんの眼を引いたのはやはりヤマジャクヤクだった。ちょうど満開の株がいくつもあり、皆さん夢中でスマホに収めていた。

草花ばかりに目が行きがちだが、樹木もしっかり見てもらった。ハウチワカエデには大きく真っ赤な花がぶら下がっており、早速手に取って見てもらった。雌花には既に立派な翼がついていて、「これがあの大きなプロペラになるのね」と皆さん感心しきりだった。またミヤマザクラの花芽はまだ開いていなかったが、「ゴンドラの窓からいくつも見えたあの白いサクラがこれです」と話し、花芽を見せながら上向きで独特の花序に想像を馳せてもらった。隣り合うタカネザクラの方はもう花も終わっていたが、マメザクラに似た欠刻状鋸歯のある葉を見てもらった。しかし「ミヤマザクラにタカネザクラ... 覚えきれない」とこぼす人も。

昼食の後は林の中を歩いて湿原に移動した。明るいカラマツの林を抜けると、木道の広がる入笠湿原だ。木道脇にズラリと並ぶズミが開花すると見事なのだが、開花には今一步の状態だった。しかし赤い花芽が木全体をポツと薄紅に染める光景が広がり、それはそれで美しい。また湿原の真ん中にエゾノコリンゴが一本だけ満開の花をつけていた。同じ仲間のズミと花の色合いの違いを比較できると良かったのだが、今回は真っ白な花のエゾノコリンゴだけがひととき目立っていた。湿原に広がる日本スズランはまだ開花には早かったが、陽当たりの良い一角だけに少し花をつけた株もあった。今回ここで一番の目玉はクリンソウで、凜と立った茎の上に真紅の花を開いた姿はとりわけ人目を引いた。木道の脇にクリンソウが現れる度に写真に収める人が滞留し、木道には渋滞が出来るほどだった。もう少し時期が遅い方が花の種類は多かったのだろうが、好天と美しい花々、そして心地よい疲労感に、皆さん満足していただけたのではないだろうか。(小久保 記)

【第2班】(担当: 越智、杉山)

女性ばかり13人のグループで、草花をよく知るベテラン揃いなので、こちらが教えていただくという謙虚な気持ちで御案内した。その様子をかいつまんで報告したい。

まず草本だが、一番のお目当ては釜無ホテイアツモリソウだった。しかし事前の情報では、例年に勝る積雪のため雪が遅くまで残り、開花が10日以上も遅れているという。実際そのとおりで、今回は見られなかったのが残念だった。しかし、それに代わって、濃い眉毛に大きな目をした人の顔のように見える?イチョウラン(一葉蘭)が見られたのがよかった。皆さんしっかり写真に残しておられた。

サクラソウのピンク色が目を引いた。異花柱花であることを説明し、なぜそのような構造になったのか考えてもらった。地味であるけれども有用なズダヤクシュについて、名の由来や薬効について説明した。またイカリソウでは、薬効のほかに三枝九葉草という別名から葉の付き方を連想してもらい、それが特徴の一つであることを覚えてもらった。

13人もの目で植物を探すので、下見では見られなかった植物を発見、それはササバギンランだ。まだ、開花はしていなかったが、よく見つけてくれました。ギンランかササバギンランか同定に躊躇していると、チョンチョンと肩をつつき「ササバ、ササバよ」と、人に聞こえぬよう囁くような声で教えてくれた。さすがベテラン! それから、ヤマシャクヤクが咲いていた。ほっこりした感じの優しい花に皆さん喜んでくれた。湿原では白い花が... ニリンソウ?、ヒメイチゲ?、サンリンソウ?... 図鑑を参考に皆で考え、サンリンソウと結論づけた。

次に樹木だが、ムシカリの花が少し残っていたのでヤブデマリとの違いを説明。またこれは茶道で良く使われることから、ムシカリを含めた「利休七選花」を紹介した。ミヤマザクラでは花序が立っていることや、鋸歯の先端が腺になっていることを話した。鋸歯の腺については、それを皆さんにルーペを使ってしっかり確認してもらい、「見えた、見えた!」と納得してもらえた。

残念ながら、資料に載せたヒロハヘビノボラズは見つけられなかった。しかし、同じ仲間のメギが咲き始めていた。まだ花が開き切らないものばかりだったので、雄しべの傾震運動を体験してみることはできなかった。

代わりに、話でそのような反応をする理由など説明した。サルオガセがカラマツから垂れていた。そこで、サルオガセの薬効について「女のヒステリー、男の浮気止め」に効くという山男の間の語り草、本当は咳や結核の薬であることや、樵や炭焼きが大切にしていることなどを説明した。そんな話をしつつ、林道を通ってゴンドラ駅まで戻った。

(杉山 記)

【第3班】(担当: 小嶋、佐野、高橋)

3班は12名で、ほとんどが過去にここを訪れたことがある方だった。山野草公園から散策を開始したが、最初に目に入ったのが「ドイツスズラン」。花が咲いている株があったので、花の奥(雄しべの基部)の色を観察してもらった。配布資料と照らし合わせると、資料では紫色となっていたがむしろ茶色っぽく見えた。それが基部まで白い日本スズランとの識別ポイントであることを説明した。

山野草公園には色々な野草が植えられているが、この時期は開花前の植物が多く、葉だけでは判り難い種が多くあった。その中でもイチヨウランやヤマシャクは花期を迎え、ちょうど見頃だった。皆さんスマホで写真を撮っていたが、イチヨウランは良いアングルで撮れず四苦八苦していたようだ。ヤマシャクは、咲いている場所によって蕾のものから花期終了間近のものまで、色々なステージのものを観ることができた。何故このように違うのか? ...その理由を皆さんに考えてもらった。場所によって光の差し込み方が異なるため、温度が関係しているのではないかと解説すると、「なるほどねー」と皆さん納得。実際、光が最もよく当たる場所のシャクは、すでに花期が終わろうとしていた。

昼食後は入笠湿原へ向かった。コメツガ林を歩きながらコメツガのヤニ袋からヤニを取り出し、匂いを嗅いでもらった。入笠湿原に着くとエゾノコリンゴやクリンソウ、サクラソウが見事に咲いていて、皆の目を楽しませてくれた。木道を歩き、山荘に着いた所でトイレ休憩。帰りは木の階段を登って帰ることを伝えると、「あんな急な階段を・・・?」との声。確かに急な勾配に見えるのもっと緩やかなコースを戻りたいようだったが、「大丈夫! 休みながらゆっくりと歩きますから・・・」と言って、納得してもらった。事実、思ったほどハードではなかったようだった。湿原一面に広がっているスズランを観てもらったが、このスズランは思った以上に小さかったようで驚かれた。シカ除けゲートを出たところで、近年増えているシカについて体の特徴等を解説した。その後は車道に出て無事、山頂駅まで戻ってきた。今回は天候にも恵まれ、スズラン、イチヨウラン、ヤマシャク、サクラソウ、クリンソウ等の草花を観ることができたことは、本当にラッキーだった。皆さん、十分に楽しんでいただけたものと思う。

(佐野 記)

【以下、スナップ写真】





まずはスズラン畑を見る



ドイツスズラン



山野草園をじっくりと見て回る



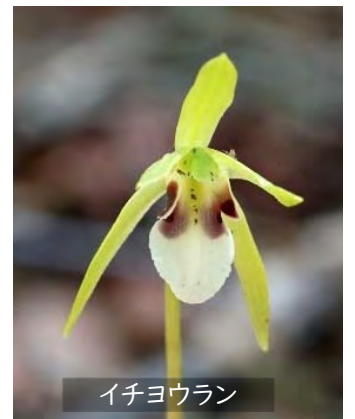
山野草園をじっくりと見て回る



ヤマシャクヤクが咲いていた



ヤマシャクヤク



イチヨウラン



スマホで写真に撮る



ツバメオモト



ハウチワカエデの花を見る



入笠湿原



入笠湿原



湿原の木道を進む



湿原の木道を進む



ズミの花芽



満開のエゾコリンゴ



クリンソウを見る



クリンソウの花

以上